

2019年4月28日（日）

主 題：「どう、しましょうか」

—私の一貫性ない舌—

テキスト：ヤコブの手紙3章9～12節

はじめに

- ・しばらく、ヤコブの手紙から間が空きましたので、少し復習しましょう。
ヤコブは1章で、「**みことばを実行する人になりなさい**」(1:22)と勧めました。2章で、「**信仰と行い**」(2:17)について勧めました。そして3章に入り、舌（言葉）の問題を取り上げ、舌はどんなものであるか教えてくれました。
3:2 私たちはみな、多くの点で失敗をするものです。もし、ことばで失敗をしない人がいたら、その人は、からだ全体もりっぱに制御できる完全な人です。
3:3 馬を御するために、くつわをその口にかけて、馬のからだ全体を引き回すことができます。
3:4 また、船を見なさい。あのように大きな物が、強い風に押されているときでも、ごく小さなかじによって、かじを取る人の思いどおりの所へ持って行かれるのです。
3:5 同様に、舌も小さな器官ですが、大きなことを言って誇るのです。ご覧なさい。あのように小さい火があのような大きい森を燃やします。
3:6 舌は火であり、不義の世界です。舌は私たちの器官の一つですが、からだ全体を汚し、人生の車輪を焼き、そしてゲヘナの火によって焼かれます。
3:8 しかし、舌を制御することは、だれにもできません。それは少しもじっとしていない悪であり、死の毒に満ちています。
- ・話は変わりますが、私たちがこの舌（言葉）の問題を学んでいた矢先、日本国の最高議決機関である国会で、舌（言葉）の失言問題が起こりました。
- ・**4月5日に塚田一郎国土交通副大臣が、安倍晋三総理と麻生太郎副総理兼財務相の地元を結ぶ道路事業を「**村度した**」という発言で、辞職しました。**
- ・**4月10日に桜田義孝五輪担当相が、「復興以上に大事なものは、高橋比奈子衆議院議員さんだ」と失言し、その責任を取って辞任しました。オリンピック担当大臣は他にも幾つかの失言や暴言があり、本当に残念であります。**
- ・日本国の大臣、副大臣という重職につく立場の人としては、不必要な発言でした。少し前になりましたが、丸山和也参院議員も、オバマ米大統領を念頭に「**黒人の血を引く。奴隷ですよ**」などと発言し。その責任を取り、参院憲法審査会の委員を辞任しました。**数え上げたら切りがありません。**
- ・舌（言葉）の問題は、時代が変わっても、一向に変わりません。
なぜ、でしょうか・・・？ ヤコブは次のように語りました。
3:11 泉が甘い水と苦い水を同じ穴からわき上がらせるというようなことがあるでしょ

うか。

3:12 私の兄弟たち。いちじくの木がオリーブの実をならせたり、ぶどうの木がいちじくの実をならせたりするようなことは、できることでしょうか。塩水が甘い水を出すこともできないことです。

- 皆さん。甘い水と苦い水が同じ穴から出ること、また、いちじくの木がオリーブの実を結ばせるということ、この2つは絶対に「あり得ないこと」です。しかし、この「あり得ないこと」が起こっています。なぜ、でしょうか。
- 今日のメッセージのテーマは、「どう、しましょうか」（一貫性のない舌）です。この舌の問題は、決して大臣だけの問題ではありません。いいえ、私たちの問題でもあります。次の2点から、神の前に出て参りましょう。

大切なポイント

1. 一貫性のない舌

1) 賛美とのろい

3:9 私たちは、舌をもって、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神にかたどって造られた人をのろいます。

3:10 賛美とのろいが同じ口から出て来るのです。私の兄弟たち。このようなことは、あってはなりません。

- 今日のテキストで、ヤコブは舌が一貫性のないものであることを示しています。だれでも、舌から出る言葉を絶対大丈夫、と断言できる人はいません。ヤコブは「私たち」と言いました。つまり、民族、言語、地位、時代を超える人類一般について言える問題であると言えます。
- 9節で、私たちは舌をもって、「主であり父である方をほめたたえる」と言いました。「主」（主従関係）とは、権威を強調した言葉です。「父」とは、愛とあれみを強調した言葉で、神を賛美する言葉です。天におられる主である神をほめたたえます。
- しかしその同じ舌で、私たちは人をのろうこともします。これもまた、人類一般について言えることです。
- 私たちは毎週の礼拝で神をほめたたえ、神に感謝し、祈りを捧げます。ところが礼拝が終わってから、つい先ほど神をほめたたえ、感謝をささげ、祈りを捧げたその同じ舌で、だれかの悪口を言うことがあったとしたら、それはおかしいことではないかと、ヤコブは言うのです。
- ヤコブは未信者に対してではなく、クリスチャンに対して書きました。ヤコブの知っている教会の中で、こういうことがあったと思います。残念ながら、これは私たちの間でもあり得ることなのです。もし、同じ教会の兄弟姉妹の間でそういうことがあったら、それはとても悲しいことです。

2) 原罪をかかえる私たち

- 本来、人間は神にかたどって造られた存在で、そのような存在ではありません。しかし、罪が入って来て以来、神のかたちを破壊してしまいました。そして、神との関係を断絶

させてしまいました。ですから、賛美とのろいが同じ口から出るという「あり得ないこと」が現実には起こっているのです。

- それが、私たちが自力ではそうすることもできない「原罪」というものです。神の忠告を聞き入れなかった人間は、生まれながらに罪をかかえる身となってしまいました。
- 神のかたちに創造された人をのろうということは、創造主である神をのろうのと同じこととなります。それは罪以外のなにものでもありません。
- ヤコブは言いました。

3:10 賛美とのろいが同じ口から出て来るのです。私の兄弟たち。このようなことは、あってはなりません。

原罪をかかえる私たちは、もう希望はないのでしょうか。いいえ、そうではありません。その歪められた神のかたちは、修復されるのです。ヤコブは、一貫性のない舌に目を止めるのではなく、一貫性のあるものに目を止めることを薦めました。

2. 一貫性のある自然界

3:11 泉が甘い水と苦い水を同じ穴からわき上がらせるというようなことがあるでしょうか。

3:12 私の兄弟たち。いちじくの木がオリーブの実をならせたり、ぶどうの木がいちじくの実をならせたりするようなことは、できることでしょうか。塩水が甘い水を出すこともできないことです。

- 一貫性のない舌と比較すると、自然界がいかに一貫しているかを示しました。

1) 水と果樹

- 「甘い水」とは飲用に適した水のことです。「苦い水」とは、飲めない水のことです。同じ泉から、2種類の水が吹き出すことはありません。同じように、果樹が例に上げられました。いちじくの木が、オリーブの実をならせたりすることはありません。1本の樹が、2種類の異なる実をならせることはあり得ないことです。そのあり得ないことが、実際起こっています。それが舌です。じつに恐ろしいことです。

2) 自然法則には一貫性がある

- 自然界に生息するものは、自然の法則に従い活動しています。その活動は一貫しています。しかし、舌はそうではありません。舌の二面性こそ、私たちの心の二面性を証明しています。
- では、私たちはどうすれば良いのでしょうか・・・？
私は次の3点をお伝えしたく思います。

① 心の毒を取り除く

- 言葉は心の内にあるものが外に表れます。自分の心に何を持っているか、ある意味で、これがすべてです。

3:8 しかし、舌を制御することは、だれにもできません。それは少しもじっとしていない悪であり、死の毒に満ちています。

ここに「毒」という言葉が出てきましたが、心に毒があると、やはりそれが言葉に出てき

ます。

- もちろん、心に毒を持ちながら、きれいな言葉でそれをごまかすことも可能でしょう。逆に口が悪いからといって、心に毒があるとは限りません。口は悪いけれども正直な人、暖かい人はいます。しかし、それはそれとして、本質的に言えることは、私たちの心がどういう状態であるかが、言葉になるというのは事実だと思います。
- 私たちの心から毒を除かなくてはなりません。言い換えれば、私たちの罪を解決していただくならば、私たちの言葉は変わっていくはずですが、私たちの心が常に平安であるならば、私の言葉にもそれは必ず影響を与えます。心が落ちつかず不安な状態にある時、私たちの心は自分の思い以上に毒を帯びてしまうのではないのでしょうか。
- ですからイエス・キリストによって、心を作り変えていただくこと大切です。イエスがくださる平安を、心に持つことが必要です。心を変えられなくて、言葉が変えられることは難しいことです。コロサイ人への手紙3章16節は、次のように薦めています。

キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませなさい。

- 神のみことばが、いつも私の心に満たされているよう祈りましょう。それは私たちの信仰生活にかかわることです。

② 聖霊の導きに従う

- イエスは次のように約束してくださいました。

わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主を、あなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたとともに、おられるためにです。

ヨハネ 14:16

助け主とは ⇒ 聖霊なるお方です。

- 私たち自身は不十分な者であることを、まず心に留めておかなければなりません。そして言葉を使うとき、常に注意深くあることです。お互いの不十分さからくる誤解や間違いが、決定的な悲劇になってしまうことがあります。
- 例えば、こんな例がありました。
ある人が、車の渋滞にまき込まれ、約束の時間が守られなくなりました。そこで途中で電話をかけました。電話を受けた側は、だれかが重体（健康状態）で快復の見込みはないという連絡だ、と取り違えたという話しです。笑い話となったのか、悲劇的な勘違いかは分かりませんが、言葉のやりとりにはそういうことがあります。笑ってすますことができればよいですが、人間関係を決定的に壊してしまうこともあります。人間の不十分さ、弱さから来る問題です。ですから、原罪をかかえる私たちは要注意しなければなりません。

- しかし、神を信じる人には聖霊が内住してくださいます。

3:8 しかし、舌を制御することは、だれにもできません。それは少しもじっとしていない悪であり、死の毒に満ちています。

ここでは、「制御」という言葉がでてきますが、聖霊は心に働いてくださり、コントロールしてくださるお方です。

- 「おまえ、少し言い過ぎているよ。」という聖霊のチェックが入った時に、

その声に聞き従うか、あるいは相手の人とのやりとりを続けるかです。

聖霊に導かれる時とは、腹を立てている状態（あるいは怒りに燃えている状態）ではありません。本当に不思議ですが、腹を立てている時、怒りに燃えている時は、それなりの言葉が出てくるものです。

- 私たちは不十分で、弱さを持つ者であることを心に留め、聖霊の助けをいただくことです。それはキリスト者の特権であります。
- 覚えてください。私たちには欺瞞や、自己矛盾から解放する力は、まったくありません。聖霊によって、助けられる必要があります。

• 皆さん！ 小さな舌が大きな問題を引き起こすことを学びました。しかし、一方では、小さな私の一言が大きな恵みと祝福を人に与えることもあります。

私の一言が、だれかの大きな励ましとなるならば、それはすばらしいと思います。

- 少し勇気がいるかも知れませんが、イエスのことをまわりの人に語るができるならば、どんなに幸いでしょうか。小さな私の舌が、私の言葉が、神の栄光を現す働きのために用いられたら、どんなに幸いでしょうか。

- 皆さん！ 同じ舌ですが、その違いはどこにあるでしょうか。

⇒ 舌を用いる人に違いがあります。

私たちの口から、神が悲しまれるような「のろいの言葉」が出ることはありませんように、願います。聖霊に導かれ、まわりの人に喜びを与え、幸いをもたらすものでありますように、心から願います。

- それには、まず私たちの心の内にある毒を取り除いていただくことです。罪をきよめていただき、主にあって、心をきよめていただくことです。そこから全ては始まるのです。

ま と め

主 題：「どう、しましょうか」

—私の一貫性ない舌—

- 私たちは今日、大切なことを学びました。それは一貫性のない舌を、どのように制御（コントロール）するかです。言葉で失敗しない人はいません。言葉を制御できる人もいません。舌は死の毒に満ちています。
- しかし、神は私たちに修復の道をイエス・キリストにあって備えてくださいました。では、どうすれば、のろいの言葉ではなく、賛美の言葉を語るができるでしょうか。
 1. 心の毒を取り除くこと
 2. 聖霊の助けを受けること

* God bless you !